

たきれいな水の流れている川で洗いました。

すると、今まで、出ない出ないと苦心していた、純粹の原色が現われたのです。その感激で、この人の反物たんものを持つ手がふるえていました。

それからというもの、木綿の色染めの水洗いは、この沼でするようにになりました。それからこの村を、自分の方の村の名をとって、「天満」と言うようになりました。

現在の天満の東に字沼田という地名がありますが、それが、もとの沼のあったところでした。大正年間に行なわれた耕地整理前は、二反以上の広さの沼がありました。今はもうありません。

この沼に、その昔、亀が住んでおりました。沼の主でした。

雨の夜、はって高田町雀林にあるふるかた沼の主のところ、お嫁に行きました。

お嫁に行った次の朝、この沼からふるかた沼まで、はって行った足あとがのこっていたということなのです。